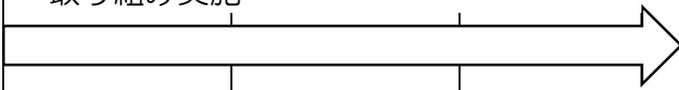
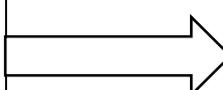
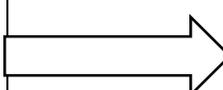
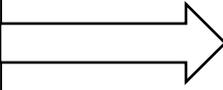
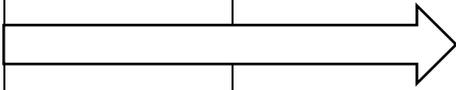
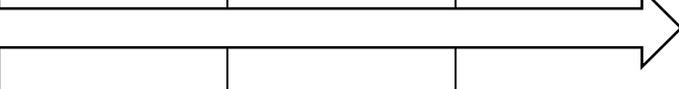


すべての人が地域や社会とつながり役割が持てる南区にするには（Aグループ）

実施項目		NO.1 つながりづくりの拠点の整備				
実施内容		<p>実施事業・活動名 <u>既存の拠点に関する分析</u></p> <p>概要 これまで社会的孤立等、様々な背景を抱える方が社会や地域とつながるための拠点を整備してきた。 今後、一層の機能化や横展開を行っていくための分析を利用者や家族、支援者へのアンケート調査やヒアリング、関係機関との協議等により実施する。</p> <p>実施事業・活動名 <u>拠点機能の充実化</u></p> <p>概要 既存の拠点に関する分析に基づき、より利用しやすく自立に向かうためのプログラムや必要な機能について検討する。</p> <p>実施事業・活動名 <u>身近で多様な拠点整備の検討</u></p> <p>概要 より身近で利用しやすい拠点整備について検討する。他法人との連携等、既存の社会資源を活用した拠点整備も視野に入るとともに、No.3(Bグループ)で取り組む拠点づくりとも連動する。</p>				
年 度 別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	既存の拠点に関する分析	アンケート・ヒアリング	アンケート・ヒアリング結果の分析、結果に基づく協議			
	拠点機能の充実化		分析に基づく拠点機能充実化に向けた検討	順次、拠点の充実化・機能化に向けた取り組み実施 		
	身近で多様な拠点整備の検討	多様な拠点の整備に関する検討		NO.3 機能別拠点との連動についての検討		

すべての人が地域や社会とつながり役割が持てる南区にするには（Aグループ）

実施項目		NO.2 関係機関・団体・企業との連携による社会参加プログラムの開発				
実施内容		<p>実施事業・活動名 <u>社会資源把握調査</u></p> <p>概要 社会参加プログラム開発に資する既存の社会資源について実態把握調査を実施する。なお、把握にあたっては人的・物的・その他様々な可能性を探る。</p> <p>実施事業・活動名 <u>社会資源とのマッチングによる社会参加プログラム開発</u></p> <p>概要 対象者の個別性を大切に、好きなことや得意なことを活かしながら社会参加や担い手となれるような仕組み（プログラム）を検討・構築する。</p> <p>実施事業・活動名 <u>多様な形での社会参加の仕組みの構築</u></p> <p>概要 仕事や居場所につなぐことだけが社会参加ではなく、自宅での参加の形やオンラインでのつながり等、多様な形で参加できる仕組みを検討・構築する。</p>				
年 度 別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	社会資源把握調査	地元企業等への働きかけ、協力団体の把握				
	社会資源とのマッチングによる社会参加プログラム開発		協力企業・団体等との具体的な連携方法の検討	検討結果を踏まえたプログラムの開発・実施		
	多様な形での社会参加の仕組みの検討	オンライン上でつながるプログラム検討	自宅等でできる社会参加プログラムの検討・実施			

区民の善意を活かし皆で支えあえる南区にするには（Bグループ）

実施項目		NO.3 誰でも気軽に集える活動の拠点をつくる				
実施内容		<p>実施事業・活動名 <u>求められる拠点のアンケートを実施</u></p> <p>概要 ボランティア活動や地域（まちづくり）活動を実施している方及び地域住民にどのような機能をもった拠点が必要とされているか、そのニーズや現状を把握するためのアンケートを実施する。</p> <p>実施事業・活動名 <u>機能別拠点開設のための仕組みづくり</u></p> <p>概要 アンケートにより「求められる拠点の機能」を把握するとともに、ニーズに合致した拠点を機能別に分類し、その機能ごとに拠点が開設できる仕組みづくりを行う。 また、既存のサロンやここパリスポットについても持てる機能をより拡充できるように働きかけていく。</p> <p>実施事業・活動名 <u>機能別拠点の担い手の育成</u></p> <p>概要 機能別の拠点ではその目的にあったそれぞれの対応が求められるため、それに対応できる技術を持った担い手を育成する養成講座を実施する。 併せて地域の中からそのような人材を積極的に発掘していく。</p>				
年 度 別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	求められる拠点のアンケートを実施	アンケート内容の検討及びアンケートの実施	アンケート結果の分析及びその結果の反映			
	機能別拠点開設のための仕組みづくり		アンケートで把握した求められる機能の分類	機能別拠点開設の仕組みづくりの検討	→	
	機能別拠点の担い手の育成	担い手養成講座の実施及び人材の発掘			→	

区民の善意を活かし皆で支えあえる南区にするには（Bグループ）

実施項目		NO.4 ボランティア活動等と地域福祉活動の連携を目指す				
実施内容		<p>実施事業・活動名 <u>地域で必要とされるボランティア活動の支援</u></p> <p>概要 日ごろから活動をしていく中で、財源や活動場所などに苦労しているボランティア団体等に対し、地域福祉推進協議会と社協が協力して支援を行うことでより一層の活動の推進を図る。</p> <p>実施事業・活動名 <u>ボランティアと地域の交流会の開催</u></p> <p>概要 地域でボランティア活動に取り組んでいる団体等と地域福祉推進協議会の交流会を開催し、意見交換を通じて互いの活動の理解の促進及び地域福祉活動の現状と課題の共有を図る。</p>				
年度別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	地域で必要とされるボランティア活動の支援	ボランティア団体等への支援方法の検討	ボランティア団体等への支援	→		
	ボランティアと地域の交流会の開催		交流する団体と地域の選定	地域ごとでの交流会の実施	→	

住みなれた地域の中でお互いに気づかい支えあえる関係をつくるには（Cグループ）

実施項目		NO.5 福祉に限定しない学区の活動、人材、ニーズの把握				
実施内容		<p>実施事業・活動名 学区ヒアリングの実施</p> <p>概要 福祉分野に限らず、防災・防犯・交通安全・多文化共生等も含めた学区活動の現状と課題、展望、各活動の要となる人材を把握するため学区役員等への聞き取りを行う。</p>				
年度別進行状況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	学区ヒアリングの実施	モデル学区 2学区で実施	4学区で実施	4学区で実施	4学区で実施	4学区で実施



策定委員会の様子



作業部会の様子

住みなれた地域の中でお互いに気づかい支えあえる関係をつくるには（Cグループ）

実施項目		NO.6 福祉分野外の既存学区活動（防災他）との連携				
実施内容		<p>実施事業・活動名 <u>学区のことを知ろう会（仮称）の開催</u></p> <p>概要 学区住民を対象に、テーマ（防災、多文化共生、福祉等）を決めて現在の活動状況を周知するとともに、該当テーマの関係機関による説明・質疑応答等や体験等もできる会を実施する ※既存行事と同時に行う等負担のかからない実施方法を検討する</p> <p>実施事業・活動名 <u>「地域のみんで話す会」の実施【拡充】</u></p> <p>概要 「学区ヒアリング」で抽出された学区の地域課題や将来展望について既存の事業・活動をより効果的に展開できるよう地域福祉推進協議会と学区団体、関係各機関で検討する。</p> <p>実施事業・活動名 <u>推進協研修会及び推進協活動者への情報提供の充実</u></p> <p>概要 どのテーマの学区活動も福祉とつながっているという視点での推進協活動に参考となる研修の実施、また区内外問わず他学区推進協の活動情報を気軽に閲覧できる方法を検討する。</p>				
年 度 別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	学区のことを知ろう会（仮称）の開催	実施方法の検討	モデル学区1学区で実施	→		
	「地域のみんで話す会」の実施【拡充】		学区ヒアリングが住んだモデル学区で実施	→		
	推進協研修会及び推進協活動者への情報提供の充実		他学区推進協活動情報閲覧方法の検討	推進協研修会への反映及び他学区推進協活動情報閲覧の仕組みづくり	→	

住みなれた地域の中でお互いに気づかい支えあえる関係をつくるには（Cグループ）

実施項目		NO.7 福祉活動推進の人材拡大				
実施内容		NO.4 「ボランティア活動等と地域福祉活動の連携を目指す」 ○地域で必要とされるボランティア活動の支援 ○ボランティアと地域の交流会実施 との連携				
年 度 別 進 行 状 況		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	地域で必要とされるボランティア活動の支援	ボランティア団体等への支援方法の検討	ボランティア団体等への支援	→		
	ボランティアと地域の交流会の開催		交流する団体と地域の選定	地域ごとでの交流会の実施	→	